

GA332

国際社会演習 - アートは国境を越える?! - 間文化性研究 -

桐谷 多恵子

配当年次/単位：3~4年 / 4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1705251
授業コード：C1128

* インターカルチュラルリティ研究 = 文化というテキストを解釈する
国際文化学部の英語表記にも含まれる概念： **Interculturality** < インターカルチュラルリティ / 間文化性 > を研究する。文化というテキストを理解し、その仕組みを考えるために重要なキーワードがインターカルチュラルリティであり、グローバリゼーションの進む中では、個々の文化の独自性を互いに尊重し、多くの文化の独自性を保つことがさらに重要になっていることをふまえ、そのための最初の一步として、文化の多様性が成り立つ仕組みとしてのインターカルチュラルリティを知る。

演習では、文化表象が記号として構築されていることを理解することから始め、絵画・音楽・スポーツ・衣服・建築・食事・医療・福祉などなどのすべてが、言語がそうであるのと同じく、一定の記号体系によって成立していることを確認する。学生一人ずつが興味を持つありとあらゆるすべての文化表象の一つ一つを、その深層の意味のレベルで理解する。

理論研究に加えて、間文化性を身体性として確認するために、現代アートを共同研究テーマとし、現代アートが、地域文化を再確認しつつ国際文化の関係性を構築するために大きく貢献していることを明らかにする。現代アートの役割を知った上で、自分たちもインスタレーションなどを制作し、行動する主体となることを学ぶ。

私たちは、社会を形成し、その中で生きている。社会とは、自己と他者が出会い、共に生きていくことによって、その共生の中で共に築いていくものであり、小さな社会からより大きな社会へと絡み合う複層性を作っていく。そのような複層をなし、互いに関係を持ち、影響しあっていく複層性で複数形の社会は、通時的・共時的な変化をするものであり、そのような変化は、私たちの日常的行為の積み重ねによって私たちが作り出すものである。こうして複層性で複数形の多様な社会がそれぞれの文化を持つのであり、それぞれの地域文化に着目し、それらが織りなす国際文化に視野を広げ、社会の諸相における文化の関係性と躍動性を研究するのがこの演習である。

【到達目標】

国際文化学部の基本概念： **Interculturality** < インターカルチュラルリティ > を理解し、文化の生成と変化の仕組みを把握する。

学術論文を精密に読み、学術研究の基本を身に付ける。

学術研究の基本に即して論文を書く。

各自の研究テーマを決め、研究成果を発表する。

【授業の進め方と方法】

基本文献と英語論文を読み、討論する。

個人研究発表を行なう。

現代アートの展覧会を見に行く。

作品制作と発表を行なう；春学期に1回、秋学期には学部学会で発表する。

個人研究論文集を作成する。

ゼミ合宿として各地の現代アート国際展などを訪ねる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ運営について決定
2	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第1章	基本文献第1章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ

3	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第1章第2回 英語論文第1回	基本文献第1章担当者レポートと全員の討論・エクササイズの第2回 英論第1回のレポート・全員の討論
4	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第2章 個人研究構想発表第1回	第2章 個人研究構想を順に発表する第1回
5	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第2章第2回 個人研究構想発表第2回	第2章第2回 個人研究構想発表第2回
6	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第3章 作品構想第1回	第3章 作品制作の構想について討論第1回
7	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第3章第2回 作品構想第2回	第3章第2回 作品制作の構想について討論第2回
8	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第4章 作品制作第1回	第4章 作品制作第1回
9	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第4章第2回 作品制作第2回	第4章第2回 作品制作第2回
10	作品発表会	作品発表と解説を行う
11	英語論文第2回 作品発表総括	英論第2回 作品発表の振り返りとまとめ
12	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第5章 個人研究発表第1回	第5章 個人研究発表と質疑第1回
13	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第5章第2回 個人研究発表第2回	第5章2回 個人研究発表と質疑第2回
14	英語論文第3回 個人研究発表第3回 まとめ	英論第3回 個人研究発表と質疑第3回 このセメスターの総括
15	秋学期 回	テーマ 内容
16	イントロダクション	秋学期ゼミ運営について決定
17	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第6章	基本文献第6章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
18	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第6章第2回 個人研究中間発表第1回	第6章第2回 個人研究の中間発表と質疑第1回
19	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第7章 個人研究中間発表第2回	第7章 個人研究の中間発表と質疑第2回

20	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第7章2回目 個人研究中間発表第3回目	第7章2回目 個人研究の中間発表と質疑第3回目
21	英語論文第4回 作品構想第1回	英論第4回 作品制作の構想について討論第1回
22	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第8章 作品構想第2回	第8章 作品制作の構想について討論第2回
23	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第8章第2回 作品制作1回	第8章第2回 作品制作開始
24	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第9章 作品制作第2回	第9章 作品制作継続
25	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第9章第2回 学部学会発表準備 作品制作	第9章2回目 最終準備ゲネプロ
26	学部学会発表総括と次年度準備	発表の総括と次年度に向けての討論
27	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第10章 最終個人研究発表1回目	第10章 年度締めくくりの個人研究発表と質疑第1回
28	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第10章第2回 最終個人研究発表第2回	第10章2回目 最終個人研究発表と質疑第2回
29	英語論文第5回 最終個人研究発表第3回目	英論第5回 最終個人研究発表と質疑第3回
30	今年度のまとめ	今年度の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・英語論文を系統的に読み、学習ノートに書き込み、整理する。
 学習ノートは、準備学習 ⇒ 授業内 ⇒ 復習で順次参照し、書き込んでいく。
 学術用語・人名などは、学習ノートに書き込み、自分自身で編集した辞典・事典として活用する。
 ゼミ活動の一環として現代アート展覧会を訪ねる。

【テキスト（教科書）】

基本文献：
 1 ジャン＝クロード・フォザ他『イメージ・リテラシー工場－フランスの新しい 美術鑑賞法』犬伏雅一他訳、フィルムアート社、2006年
 2 ミシェル・フーコー『マネの絵画』阿部崇訳、筑摩書房、2006年
 3 ツヴェタン・トドロフ『個の礼賛－ルネサンス期フランドルの肖像画』岡田温 司・大塚直子訳、白水社、2002年
 4 同上『日常礼賛－フェルメールの時代のオランダ風俗画』塚本昌則訳、白水 社、2002年
 5 同上『ゴッホの光の陰で』小野潮訳、法政大学出版局、2014年
 6 ジョン・A・ウォーカー／サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門－美術史を超えるための方法論－』岸文和他訳、晃洋書房、2001年
 英語論文：
 英文アート専門誌から現代アートに関する英語論文を随時選ぶ

【参考書】

ジェラルド・ジュネット『芸術の作品 I－内在性と超越性』和泉涼一訳、水声社、2013年
 熊田泰章編『国際文化研究への道－共生と連帯を求めて』彩流社、2013年

【成績評価の方法と基準】

発表と討論（50%）、個人研究（50%）によって評価。
 基本文献で展開される概念を理解し、理解したことを発表することが重要です。基本概念をふまえて、個人論文で論証力を鍛錬します。

【学生の意見等からの気づき】

学生によるゼミ運営についての提案を受けて授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ないし各自のパソコン持参が望ましい。
 資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

アートを通して国際社会を分節する！
Articulate the international community with art!